



# 福島県労連

2025年3月15日 Vol. 295(3月号)

発行／福島県労働組合総連合

〒960-8061 福島市五月町 2-5 一番ビル

TEL:024(522)3097 FAX:024(522)3102

Email:[fkсроren@soleil.ocn.ne.jp](mailto:fkсроren@soleil.ocn.ne.jp)

URL:<https://fkсроren.org/>

## 全医労(全日本国立医療労働組合) 福島支部・いわき支部がストライキ



<全医労福島支部>指名ストは1人。組合員のほか、県労連、県医労連、岩瀬・須賀川地方労連などから支援者がかけつけ、15人でアピールしました。



<全医労いわき支部>指名ストは2人。組合員のほか、県労連、県医労連、いわき市労連などから支援者がかけつけ、15人でアピールしました。

### 賃金上げろ! 4.9最賃ビッグアクションデー (第2次全国統一行動)

各単産、地方労連で  
行動が計画されます。  
多くの参加をおねがいします。

国立病院機構は、結核や重症心身障害など他の医療機関では実施困難な分野(政策医療)を支えている重

要な病院で、「命を守る最後の砦」と言われています。しかし、看護師の賃金水準は人事院勧告のある公務員と比べて、初任給ベースで年間60万円低く、賞与も低い水準が10年間据え置かれたままです。そのため、離職が相次ぎ、採用も難航し、人手不足が深刻です、また職員全体の2割を占めている非常勤職員も、昇給がなく、看護助手等も不足しています。このような状況のもと、「もう我慢も限界だ」「命と地域医療を守れ」とストライキに立ち上がりました。要求実現へ、支援を広げましょう。

会見を行いました。  
「もう我慢も限界だ」「命と地域医療を守れ」とストライキに立ち上がり、要求実現へ、支援を広げましょう。  
「もう我慢も限界だ」「命と地域医療を守れ」とストライキに立ち上がり、要求実現へ、支援を広げましょう。

「賃上げゼロ」回答に抗議!  
「賃上げゼロ」回答に抗議!  
「賃上げゼロ」回答に抗議!



<記者会見> 福島県庁内の県政記者クラブで実施。翌日に「福島民報」「福島民友」が報道しました。

# 仲間を増やして、要求実現すすめよう!

## 「県労連組織強化拡大学習交流集会」を開催

福島県労連は、2月15日(土)午後、オンラインで「組織強化拡大学習交流集会」を開催し、27人が参加しました。集会は、新歓期の取り組みの成功と年間を通じた拡大に踏み出すために、県内の経験や工夫に学び、何かひとつでも、今後の活動のヒントを持ちかえってもらうことを目的に開きました。

前半は「身近な成功例を



聞こう」として、①全医労いわき支部(8か月連続拡大の経験)、②竹田病院労組(退勤調査など組合の姿が見える活動を通して拡大)、③夢みなみ農協労組(新入職員100%加入の継続)、④建交労東北ダンブ支部(班を基礎に、専従者と連携し拡大)⑤私教連の加盟単組(職場の過半数めざし10人拡大)から報告をうけ、学びあいました。

後半は「グループ討論」。5つのグループに分かれ、報告を聞いての感想の交流から始まり、拡大に関して困っていることや悩んでいることなども率直に出し合いながら交流しました。

参加者からは「元気が出た」「継続してやってほしい」などの感想が寄せられました。

いよいよ、新歓期です。すべての新入職員を暖かく迎え、加入をよびかけましょう。

### すべての労働者の賃上げへ — 経営者団体に要請

福島県労連は、25春闘でのすべての労働者の賃上げをめざし、3月5日(水)に、経営者団体への要請を行いました。懇談では、「賃金引き上げの重要性は認識」「しかし、資材や燃料費などの高騰で原資がない」「価格転嫁がカギだが、なかなかすすんでいない」「国、県の中小企業への支援策は不可欠」などが共通して語られました。

会津地方労連も、2月28日(金)に、会津若松商工会議所、会津喜多方商工会議所を訪問し、要請しました。



<福島県商工会議所連合会>  
要請書を受け取る安達和久専務理事(左から2人目)



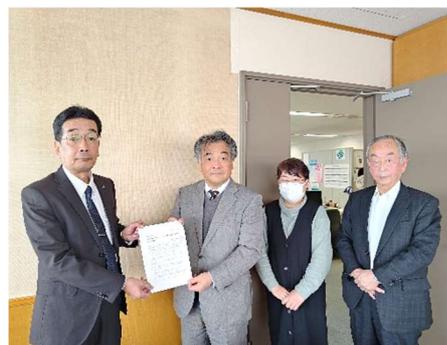
<福島県経営者協会連合会>  
要請書を受け取る板橋正治専務理事(右端)



<会津若松商工会議所>  
折笠由美子会津地方労連議長(右)から要請書を受け取る澁川恵男会頭(左)



<福島県中小企業団体中央会>  
要請書を受け取る鈴木勉副会長兼専務理事(左端)



<福島県商工会連合会>  
要請書を受け取る金子市夫専務理事(左端)

東日本大震災・  
福島原発事故から  
14年

# 「原発なくせ」が事故の教訓 再生可能エネルギーの抜本的拡大を!



「第7次エネルギー基本計画」(案)の撤回とALPS処理水海洋放出中止を求める院内集会(2月12日、東京・参議院議員会館)海洋放出中止署名23,539人分(累計61,051人分)を提出しました。



「第7次エネルギー基本計画」の閣議決定に抗議する宣伝行動(2月20日、福島駅前)



「地震大国・日本に原発いらない! 東京電力福島第一原発事故から14年! 新宿パレード」(3月9日、新宿駅東口広場出発)福島県参加者21人を含む250人が参加。写真は出発前集会のようす。



東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から14年を迎えました。

2月18日、石破政権は「第7次エネルギー基本計画」を閣議決定し原発の「最大限活用」に突き進んでいます。この方針には、2つの大きな問題があります。

ひとつは、事故を起こした福島第一原発の現状、そして原発事故の被害に今もなお苦しんでいる福島県民の実態を無視していることです。

●事故を起こした原発では溶け落ちた燃料デブリの試験的取り出し作業が始まりましたが、依然として廃炉の見通しは立っていません。

●2023年8月に開始されたALPS処理水の海洋放出も廃炉完了とする2051年までに終了する見通しはありません。逆に、エンドレスで放出が続くのではないかと心配されています。

●14年が経過する今でも、住民が自由に出入りすることができない「帰還困難区域」が7つの市町村に広く残されています。避難指示が出された12市町村だけでも、少なくとも4万7千人以上の住民が故郷に戻れていません。復興庁が発表する避難者数を大きく上回っています。

●故郷に戻った住民のみならず、病院、買い物、仕事なども、毎日の生活において、さまざまな苦労が続いています。事故前の日常は戻っていません。

●農林水産業、観光業など生業の再建でも、懸命な努力がすめられています。事故前の水準には戻っていません。

いったん事故を起こせば、家族も、くらしも、生業も、地域のコミュニティも、あらゆるものを破壊してしまう。これが、福島原発事故の実態です。事故の教訓に立てば、原発の「最大限活用」ではなく、原発ゼロこそ決断すべきです。

もうひとつは、原発の「最大限活用」は、日本のどこかで、再び原発事故が起きる可能性を大きくすることです。

昨年、能登半島地震では、石川県の志賀原発、新潟県の柏崎刈羽原発で、大事故につながりかねないトラブルが発生しました。また家屋の倒壊や道路の寸断で避難できないことも明らかになりました。南海トラフ地震でも各地で原発の存在が心配されています。地震や津波が多い日本で原発の運転を続けることはたいへん危険であり、無謀です。原発事故は再び起こしてはなりません。その最大の保障は、原発をゼロにすることです。

原発事故も被害も終わっていません。国と東京電力に責任を果たさせ、原発ゼロ、再生可能エネルギーの抜本的拡大、避難者、被災者に寄り添った復興を実現しましょう。

# 学校給食を考えるシンポジウム開催

3月2日(日)、前日にオープンしたばかりの福島市市民センターで「学校給食を考えるシンポジウム」が開催され、県内各地から49名が参加しました。

小川憲二実行委員長の主催者あいさつの後、前半は映画「希望の給食」を鑑賞しました。この映画では千葉県いすみ市や長野県松川



主催者あいさつする小川憲二実行委員長



キッズスペースが設けられ、親子で参加する方もいました。

町、東京都武蔵野市などの学校給食のとりくみがまとめられ、子どもたちに安全な食材を食べさせたいという生産者の思いに行政が応え、生産者の顔が見える地場産の有機農産物を活用することで子どもたちも地元農業について学び、また給食という安定した販路が確保できたこ

とで生産者が増えているようすなどが紹介されました。後半は4人の報告者から無償化の進む韓国やフランスの学校給食事情、学校

現場、県内の給食費無償化の現状などが報告されました。いわき市の小学校の給食について報告した教員からは「給食が無償化されることで給食費の会計や督促業務、不登校で食べない児童分の給食費対応などから解放され、教員の負担が軽減される。また、子ども自身が給食費を払っていないことで遠慮なく話すようになる」などのメリットが話されました。

参加者からは福島市の大型センター化の問題についても発言もあり、食材の面からもお金の面からも子どもたちが安心して食べられる給食の必要性について語られ、県内のとりくみをさらに進めようと決意を固められました。

## 聞いて聞いて

### 私の思いみんなの願い

☆皆様常識でわかりますよネ  
飲酒運転はぜったいだめです

(こだま交通労組 ケンミキさん)

☆行事クイズは難しいがタメになる

(福厚労鹿島分会 かめさん)

☆今年は大雪で、家がうまり、通勤に6hかかり、立ち往生に3h、とつても疲れました。

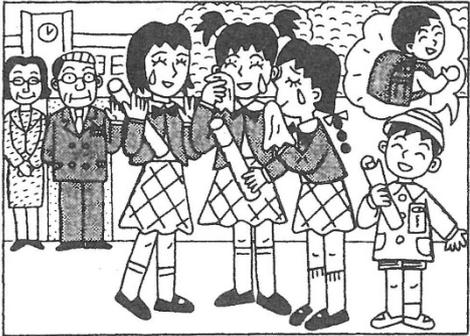
(会津地方労連 雪だるまさん)

☆備蓄米が放出されますが、それでも夏以降の米不足が試算されているようです。日本も自国の食糧問題について真剣に対策する時期なのかもしれません。

(みやぎ生協労組 だちんさん)



## まちがいは7つ



### 応募のしかた

#### 正解者5名に

#### 図書カード当たります!

応募はハガキ(メールも可)に、①クイズの答え、②氏名(ふりがなも)、③住所、④所属労組名、⑤ひとことを必ず(必要な方はペンネームも)書き添えてご応募ください。締め切りは4月15日です。

### 293号(1月号)のクイズの答えと当選者

答えは①×②○(年神様を迎えるために飾る)③○④○(「初詣」はお正月の行事の一環として参拝)⑤×(ポチ袋に入れて渡すのがマナーとして推奨されるが、絶対のルールではない)⑥×⑦○応募者は7名で1名が正解。次の方に図書カードを送ります。なお、問題文の表現が不明確だったため、一部の皆様に解釈の違いが生じ、②、④、⑤の正解率が低くなったことをご詫言申し上げます。これに伴い、4月号において当選者を増やす対応を行います。

◇ケンミキさん こだま交通労組

## 自動車共済

まずはFAXで見積りを!

割安な共済掛金、補償は充実!  
等級別割引・割増の継承ができる!

全労連共済 お申し込み・お問い合わせは各共済会へ